

賞大プロエコ

会長賞「SUICOM」

ランデス「来年度に製品発売へ」

エコプロダクツ大賞推進協議会(森島昭夫会長)が主催し、環境負荷の低減に配慮した優れた製品・サービス(エコプロダクツ)を表彰する第13回エコプロダクツ大賞の表彰式が8日、東京都内で行われ、デンカと中国電力、鹿島、ランデスの4社が共同開発した環境配慮型コンクリート「CO<sub>2</sub>-SUICOM」が会長賞(優秀賞)、全国防草ブロック工業会と防草研究会の「植物の特性を利用した防草技術製品」が審査委員長特別賞(奨励賞)を受賞した。

「CO<sub>2</sub>-SUICOM」は、大量のCO<sub>2</sub>を吸収・貯留できる「環境にやさしいコンクリート」。CO<sub>2</sub>を吸収することでコンクリートを硬化させる特殊混和材を使用し、セメント使用量を削減するとともに、製造時に火力発電所や工場等の排ガスに含まれるCO<sub>2</sub>を吸い込んで固定化するもので、一般コンクリートと比べて製品化に至るまでのCO<sub>2</sub>排出量が

が著しく低く、製造時のCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロ以下にできる。アルカリ性が低い(ほぼ中性)ため、環境への親和性や安全性が高い特長もある。特殊混和材の原料やセメント代替材に産業廃棄物も利用している。

審査委員会は選考理由として「アーC<sub>2</sub>Sという、CO<sub>2</sub>と反応して固定化する性質をもつ材料を用いることで、高濃度なCO<sub>2</sub>をコンクリート内へ固定化することに成功した。高炉スラックや石炭灰を一般のコンクリート製品に比べ4〜6倍多く使用でき、CO<sub>2</sub>発生抑制に成功した点も評価できるとしている。ランデスの大月隆行社長は「プレキャストでのように製品化できるかという点で当社にも声をかけていただき、共同開発できたことはうれしく思っている。ヒット作を世に出せるように準備中



デンカ・中国電力・鹿島・ランデスの関係者



全国防草ブロック工業会・防草研究会の関係者

**5カ月ぶりに増加**  
11月の窯業外装材出荷  
日本窯業外装材協会が  
集計した窯業系サイティ  
ンクの11月出荷量は、前  
年同月に比べ11.1%増  
の944万6千平方メートル  
だった。5カ月ぶりのプラ  
ス。販売額は11.2%増  
の160億1000万  
円、生産量が4.0%増  
の918万2千平方メートル  
の91月末の在庫は6.3%  
減の1550万平方メートル  
だった。

**二次製品 談話室**  
エコプロダクツ大賞  
の審査委員を務める東  
京大学の山本良一名誉  
教授は「この18年間に  
対象とする技術の幅が  
広がってきた印象だ  
が、日本を代表する大  
手企業の出展が樹の歯  
の連続



東京大学名誉教授 山本良一

**温暖化は非常**  
が欠けるように減って  
いる。まさに星霜移り  
人は去りの感がある」  
と振り返る。  
一方で、「16年度は  
協定が甲斐なく減  
効し、  
軽減策  
組みが  
になった

来年度には発売できる見込みだ」と語った。  
また、「植物の特性を利用した防草技術製品」(防草ブロック・エレファントレン)は、植物が持つ成長メカニズム、屈性(屈光性と屈地性)に着目し、植物が自ら成長を抑制する防草技術を持つ次世代型の環境製品。

と評価された。  
環境負荷の低減に配慮した製品・サービスを紹介します。エコプロダクツ展は今年で18回目を数え、3日間で17万人の来場者を見込んでいる。また、今開催を機に「地球温暖化対策と環境配慮」および「グリーンエネルギーとスマート社会」を2大テーマに掲げ、従来の「エコプロダクツ展」を「エコプロダクツ地球とエネルギーの未来展」に改称した。

学科の吉田慎吾教授が「都市の景観に関する課題と今後の展望」について講演。パリと東京の景観画像を比較し、両都市の景観に関する考え方を解説した。

吉田教授は新宿の景観を騒音からヒントを得た造語「騒色」と表現し、舗装、ビル、街路樹、広告看板、ネオンなどがそれぞれバラバラに主張している」と指摘。一方で日本も景観法が制定され、丸の内界隈ではデザイン調整を施した計画的な街づくりが功を奏し、洗練されてきたと評価した。

また、洗練された都市の代表であるパリでは、高級ブランド店が並ぶ通りでも自然色を基調としており、舗装やブロックの色があり、それは地域の

構造躯体にも着色顔料

カラーコンクリート普及へ 導入事例を紹介

ランクスは9日、東京・丸の内の本社で、コンクリート用着色顔料に関するプレスセミナーを行った。

同社は2004年にバリエーションを豊富にした、ドイツに本社を置く特殊化学品メーカー「ランクスグループ」の日本法人。日本では10のビジネスユニットを展開し、幅広い製品群を提供している。今回のプレス

セミナーは「持続可能な都市景観を実現するランクス色のソリューション」をテーマに、無機顔料事業部が主催。日本におけるカラーコンクリートの最新導入事例を映像と共に紹介した。

また、洗練された都市の代表であるパリでは、高級ブランド店が並ぶ通りでも自然色を基調としており、舗装やブロックの色があり、それは地域の



吉田勉氏

野美術大学基礎デザイン

ケイミ  
遮熱  
環境  
度環境  
トアイ  
(建築物  
負荷低減  
の屋上  
製品が  
建材  
置され  
の助言  
た。今  
実証試  
年度末